NIEしもつけ ワークシート

小学校高学年向け
年　組

⑯

（2023年８月23日付・下野新聞16面）

乗れば脱炭素に
地域由来の電力で走行
CO_2、年間9000トン削減へ

２０３０年までに公共交通の脱炭素化を目指す宇都宮市。その一角を担うのがＬＲＴだ。電力は、一般ごみの燃焼によるバイオマス発電や家庭用太陽光発電で作られる再生可能エネルギーを使用する。二酸化炭素（CO_2）を排出しないＬＲＴを地域由来の再生可能エネルギーだけで走らせるのは、「世界でも類を見ない取り組み」（市環境創造課）という。

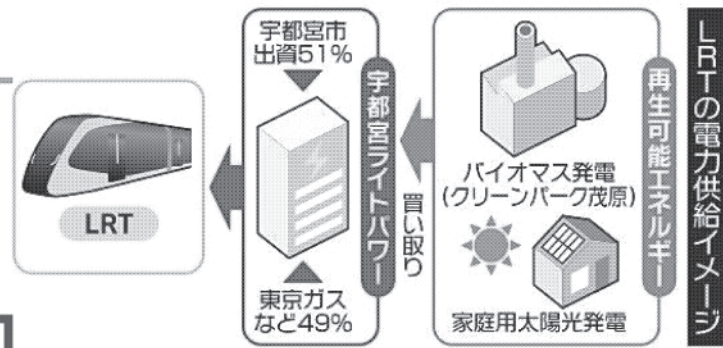
市はＬＲＴの年間使用電力を、運行や車両基地、停留場などで約４２００メガワット時と試算する。その電力を供給するのは、地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」。市が51％、ＮＴＴアノードエナジーや東京ガスなど民間企業や銀行が計49％を出資し、21年に設立した。

ライトパワーの主な電力調達先は、市内のごみ処理施設「クリーンパーク茂原」。家庭ごみから年間１万３千メガワット時の規模でバイオマス発電を行う。家庭用太陽光発電の買い取りも進め、これら再生可能エネルギーをＬＲＴに供給する。

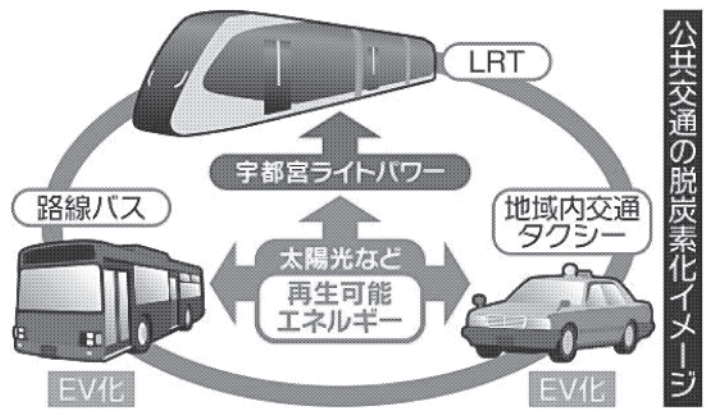
ＬＲＴの運行に伴う再生可能エネルギーの活用と自動車からの乗り換えで、年間約９千トンのCO_2削減効果を見込む。市は今後、路線バスや地域内交通、民間タクシーも対象とした電動車導入支援制度を年度内に設けるなど、公共交通全体の脱炭素化を後押ししていく。

電力の地産地消の要となるＬＲＴは「乗るだけで脱炭素化に貢献する」（同課）。開業を弾みに公共交通や地域の脱炭素化を推進できるのか、環境分野でも関心を集めている。

（増田朗子）



【言葉の意味】
- 脱炭素化…地球温暖化の原因となる温室効果ガス（二酸化炭素、CO_2）の排出量をゼロにしようという取り組みのこと



設　問

【１】宇都宮市は、公共交通の脱炭素化をいつまでに目指していますか。

【２】ＬＲＴを運行する電力には、どのようなものが使われていますか。次の表に当てはまる言葉を記入して、表を完成させましょう。

	①【　　】エネルギー	
発電の名称	②（　　）発電	③（　　）発電
発電源	④	太陽の光
電力の調達先	⑤	⑥

【３】宇都宮・芳賀のＬＲＴが「世界でも類を見ない取り組み」と言われているのは、なぜですか。

【４】脱炭素化を進めるためには、ガソリンの使用量を減らすだけではなく、「節電」や「省エネ」も有効です。脱炭素化に向けて、あなたが取り組めることはどんなことですか？そして、今日から実行してみましょう。

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会社会部会・上野智之泉が丘小教諭